

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第223号

ななえ古写真物語

VOL.223

レーキという農器械

七重官園写真帖から

明治10年ころ

鳴川地区か？



当館のシンボリックな存在として、「レーキ」という農器械を玄関横のスペースにおいている。天井はあるが、屋外なので側面は風雨にさらされることもあり、何年かおきに錆落としをしないとはならず、先月2日かけて職員三人で敢行した。長らく錆だらけだったレーキだが、本来は赤く塗られていたことがわかるので、来館の折には、ぜひ見てもらえればと思う。

ちなみに、壁面に掲示している解説板には「レーキ …牧草の刈取り（モアー）、反転（ヘーテター）などの機械とともに乾燥させる時に使用する機械で、始めのころは馬で引き、のちにトラクターの後に付けて作業をした。」と記載しているのだが、結局どんな作業に使ったのか、わかりにくい説明であることに気づいた。この場を借りて補足すると、刈り取った牧草を集める時に使う農器械である。

上の写真が、明治10年ころに七重官園で撮影された使用風景で、馬が牽引し、人がレーキにつけられた椅子（サドル）に腰かけ、馬を操っている様子が見て取れる。鉄製の大きな車輪の後方に、何十本もの湾曲した爪のようなものが装着されており、手元にあるレバーを解除すると、この爪が下がり、地面に散乱している刈り取られた牧草を集めるという仕組みとなっている。

ただし、この写真は、こういう風に馬と繋いで使うのですよ。という記録写真なので、爪は下がっておらず、しかも行者が、農作業にはふさわしくない、襟付きのジャケットを羽織っている。おそらくは、やらせとまでは言わないが、西洋農法を広めようとする、開拓使の威信を示す目的もあったのだろう。

ちなみに、この写真は『七飯町史』にも掲載されており、「牧草の反転作業」と明記されているのだが、反転作業の時は、爪を下げないで使用するということなのだろうか？いずれにせよ、牧草を集めるほかに、反転（散らす）にも使われていた農器械であったことは、確かだろう。

明治初期、七飯町に設置された「七重官園」では、こういった大型西洋農器械を何種類も導入し、農作業の効率化をはかり、北海道の開拓を推し進めていった。その動力として重宝されたのが、馬や牛などの畜力で、昭和30年代ごろに、機械化が進むまでは、上の写真のような光景が七飯町のあちこちで、見られたのだろう。

話は変わるが、久しぶりにレーキの錆落としをして、一番驚いたのは、長らく展示物として鎮座していたにも関わらず、資料台帳に登録されていなかったという事実。急いで登録したのは、言うまでもない。

4日 夜の博物館第1夜

今年度も始まりました。第1夜は、当館学芸員の「ななえの歴史散歩」。赤松並木からはじまり、成墾記念碑、第二家畜房跡、雨鱒川水路橋、庚申塚、武佐川のブナなど本町地区から大中山、大沼地区まで、歴史、民俗、自然のお話を交えて、歴史散歩の楽しさをお伝えいたしました。何となく通り過ぎていた道には、石碑や巨樹古木、意外と多くあります。新たな知識が増えた後に見ると、より輪郭もはっきりします。夜の博物館は、知識の集積に一役買う、そんなお手伝いができる講座を目指しております。



18日・19日 高校生インターン

2日間の日程で、大野農業高校の3年生1名が、インターンとして歴史館の業務の体験をしました。博物館の仕事は、来館者には見えない裏の仕事の方が多いので、見本園のブドウのツルの剪定や1日3回の館内の巡回、恒温庫の清掃などをお願いし、取り組んでくれました。歴史館は来たことがないということだったので、学芸員から常設展示の解説もありました。私たち職員が日々管理、運営している姿はどう映ったのでしょうか？ちょっと気になります。



27日 ジュニア探検クラブ

なぜブナの木は、多くの水を貯えると思う？みんなも考えてみよう。ブナの葉を見せながら、そう問いかけるのは、自然保護監視員の金澤氏。この日のジュニア探検クラブは、大沼国定公園内を散策しながら、自然側の気持ちになって見る大切さを知る時間となりました。なぜ葉っぱは緑色？カラスは誰を観察していると思う？などなど。そして、自然の中では、なぜ？に対する答えが、「わからない」となることが多いということも、学びました。



8月の予定

1	土
2	日
3	月 休館日
4	火
5	水
6	木 夜の博物館第3夜
7	金
8	土
9	日
10	月 休館日
11	火 山の日
12	水
13	木
14	金
15	土
16	日
17	月 休館日
18	火
19	水 ジュニア探検クラブ
20	木
21	金
22	土
23	日
24	月 休館日
25	火
26	水
27	木
28	金
29	土
30	日
31	月 休館日

※休館日：3日、10日、17日、24日、31日

桑切り包丁

蚕に与える桑の葉を刻む包丁。稚齢の發育に合わせて桑の葉を刻んで与えました。そば切りにも利用しました。



編集後記 ～tawagoto～

旅先で、消しゴム版画家のナンシー関さんの作品と資料を見る機会があった。精巧をきわめる小さな消しゴム版画を、角度を変えて何度も見た。コラムニストとしても活躍したので、展示してあるコラムを懐かしく読んだ。予定外の出会いは、旅先の行動にも変化があり、早速地元の本屋で、関連書籍を買い求め、この秋に展示をする情報を得た。思わぬ寄り道も時には良いものだ。旅だけではなく、日々の暮らしにも、そんな余裕を、と思う。

Pichart ～ピチャリ～

第223号

令和8年（2026年）7月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp